

「薬剤投与認定試験対策問題集」において、一部に誤りがございました。深くお詫び申し上げます。

訂正箇所

6ページ 基礎 薬剤投与の基礎 Q1の<選択肢>

- 誤 (2)一般用医薬品とは、薬局で医師の処方箋に販売されている医薬品のことである。
 正 (2)一般用医薬品とは、薬局で医師の処方箋なしに販売されている医薬品のことである。

18ページ 基礎 薬剤投与の基礎 Q13の<正解>

- 誤 (5)
 正 (2)

20ページ 基礎 薬剤投与の基礎 Q15の<正解>と<解説>

- 誤 正解 (4)
 解説 (4)×
 (5)○
 正 正解 (5)
 解説 (4)○筋肉注射の血中濃度の上昇は、静脈内投与より遅いが持続時間は長い。
 (5)×錠剤・カプセル剤は、消化管から吸収され門脈系の初回通過効果を受ける。しかし、ニトログリセリン舌下剤などは、口腔粘膜で吸収され体循環に入るため初回通過効果を受けない。

30ページ 基礎 体液・電解質 Q25の<選択肢>

- 誤 (1)生体が薬物を吸収・分布・代謝・排泄する過程を薬物動態という。
 (2)危険なく用いることができる最大の投与量を極量という。
 (3)静脈内投与は感染や組織損傷等の危険を伴う。
 (4)筋肉内注射は徐々に血中濃度を高める必要がある場合に用いる。
 (5)口腔粘膜投与は門脈系の初回通過効果を受ける。
 正 (1)血清浸透圧が低下する。
 (2)大量の発汗で起こる。
 (3)高張性脱水である。
 (4)ヘマトクリット値が上昇する。
 (5)循環血液量が減少する。

34ページ 基礎 自律神経系薬 Q29の<選択肢>

- 誤 (3)β1受容体は主に末梢動脈に存在し、受容体活性化によって末梢動脈が拡張する。
 正 (3)β1受容体は主に末梢動脈に存在し、受容体活性化によって末梢動脈が収縮する。

70ページ 病態 心肺停止に至る病態 Q23の<補足>表

- | | |
|----------------|---------------------|
| 誤 熱射病の体温 40℃以下 | 誤 熱痙攣の病態 ナトリウム欠乏性脱水 |
| 正 熱射病の体温 40℃以上 | 正 熱痙攣の病態 ナトリウム欠乏性脱水 |

72ページ 病態 心肺停止に至る病態 Q25の<問題文>

- 誤 心停止が呼吸停止に先行するものを選べ。
 正 呼吸停止が心停止に先行するものを選べ。

88ページ 病態 心配停止後の病態Q41の<解説>

- 誤 (3)蘇生直後から不安定である。
 正 (3)蘇生後4～6時間は不安定である。

90ページ 病態 心肺停止後の病態Q43の<正解>と<解説>

- 誤 正解 (4)
 解説 (5)○
 正 正解 (4)(5)
 解説 (5)×(解説のとおり橈骨動脈は必ずしも触知できるとは言えない)

98ページ プロトコールQ5の<選択肢>

- 誤 (3)目撃ありのasystole波形は薬剤投与適応外である。
 正 (3)目撃ありのasystole波形は薬剤投与適応である。

105ページ プロトコールQ12の<正解>と<解説>

- 誤 正解 (2)(4)(5)
 解説 (2)×気管挿管が必要と判断した場合は……挿管を試みる。
 (4)左の片肺挿管の可能性が高い。
 正 正解 (4)(5)
 解説 (2)○頸髄損傷が強く疑われる場合は気管挿管を実施しない。(掲載の解説は削除)
 (4)左の片肺挿管の可能性が高い。

本書に関する最新の正誤内容は弊社ホームページで随時更新しております。お手数をおかけしますが、こちらも合わせてご確認下さい。

URL: <http://www.igakueizou.co.jp>